

# 青少年育成センターだより



第13号 平成29年2月

今、高校や大学の受験を控えて、勉強に励んでいる子どもたちも多いのではないのでしょうか。受験は子どもにとって避けることができない大きな試練です。家庭によっては、受験生の存在でピリピリとした雰囲気の家もあるでしょう。また、親としてどのように接したらいいのかと悩んでおられる家庭もあることでしょう。大切なことは子どもの気持ちを理解しながら、気持ちに寄り添うことではないのでしょうか。

## 親の後ろ姿

最近、子どもが親の仕事場を訪ね、親の働いている姿を見る「職場訪問」という体験をさせている学校があります。親が働いている姿を見ることは親をより理解するという意味でとても大切なことだと思います。

ここで、話を1つ紹介しましょう。

俊二君という子がいました。お父さんは会社の警備員をなさっており、一週間のうち3日は徹夜の警備、後の日は昼間、門衛としての勤務になっているとのことでした。・・・

お母さんがある猛吹雪の晩、徹夜勤務のお父さんに、温かい弁当を届けることを俊二君に言いつけられました。お母さんには、お父さんの見回りの時間、終了の時間がよくわかっていましたから、終了時間をめざして弁当を届けさせられました。俊二君が会社の門に着いたとき、吹雪の中を、雪だるまのように雪にまみれて、懐中電灯をともして見回りから帰ってくるお父さんと、ばったり出会うことになりました。俊二君は、こういうお父さんに養ってもらいながら、お父さんを軽蔑していた自分が恥ずかしくなりました。

その晩の勉強途中、白人問題と黒人問題について、お父さんの考えをたずねました。見事な考え方にびっくりしました。話が自由貿易と保護貿易のことに移りました。そこでも俊二君は、お父さんの偉大さに感心してしまいました。勉強をしていると、次の見回りの時刻になってしまいました。「あまり遅くならないうちに帰って休むんだぞ」と言い残し、お父さんは、また、闇の中を見回りに出かけていってしまいました。誰が見ているわけでもない、誰が監督しているわけでもない。だが、お父さんは責任感が強いんだと、俊二君はまた感心してしまいました。

家に帰ると、お母さんが「この寒いのに、2時間も何していたの？」とたずねられました。「お父さんと勉強をしていたんだ」そう答えると、俊二君は、お母さんが「こたつに温まりなさい」と言うのを断って、机に向かいました。その日の日記の終わりに、俊二君は「吹雪の中の父には負けてはならぬと、勉強を続けた」と書いていました。

※東井義雄（1912年～1991年 教育者）「いのちの教え」から

働く父親の姿を見て、その後の俊二君の行動に大きな変化がありました。このように親が働いている姿を見せることは、子どもにとってとてもよい学びがあるようです。でも、なかなか仕事をしている姿を見せる機会はありません。その場合は、食卓を囲みながらも親がどのような職場で、どのような仕事をしているのかについて、子どもに話をしてみられたらどうでしょうか。

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター（23-3013）